

# 皇太子ご夫妻は「八方塞がり」

「告訴も！  
プリンス・マサコ  
問題はドロ沼化」

この23日、皇太子さまは47歳の誕生日を迎えられた。「あの浩宮さまが、もう47歳なのと、ちよつと感無量の思ひもします。今はお苦しい状況の中で、雅子さまのために精いっぱい頑張っておられる。でも、年齢よりはずっとお若

このままでは  
愛子さまが  
危ない！

2月23日に47歳の誕生日を

迎えられた皇太子さま。恒例の記者会見では、雅子さまのご回復について「長い目で見守っていたきたい」と述べるにとどまった。ご夫妻の周囲の環境は変わらぬまま。そんな中、「プリンス・マサコ」の著者、ベン・ヒルズ氏は本誌に対し――

山積する問題に  
進展なし

皇太子さま  
2月23日  
47歳  
お誕生日で――

47歳の誕生日から3日後の先月26日、皇太子さまは皇居の周囲をジョギング。1周約5キロの距離を、終始変わりないペースで2周された。

「午後2時半すぎ、皇居・桔梗門から出発され、10人あまりのお付きの人も伴走しました。お疲れの様子もなく51分ほどで完走。周囲の景色も楽しまれたようです。その後、美智子さまからお茶をいただいたとか」（宮内庁担当記者）

皇太子さまは、普段から赤坂御用地内でジョギングをされているが、じつは去年3月にも皇居の周囲をジョギングされている。もっとも、このときは1周だったが、完走後、皇居で休息された皇太子さまに、美智子さまから好物のお菓子が差し入れされるといふ出来事もあった。

去年に引き続いてのこととはいえ、なぜ、この時期に？といった疑問も浮かぶ。

「去年、オランダ静養からの帰国後、おひとり鳥海山登山をされたけれども、最近の殿下にとっては登山とジョギングが、ある意味でストレス解消の役割を果たしている。今回のジョギングに特別な意味はないと思いますが、普段のコースとは違って、特別な心地よい汗を流されたのではないのでしょうか」（元・東京関係者）

47歳の誕生日会見は、実際には誕生日より2日早い21日



「だが、その証拠は明示されなかった。私は謝罪する理由はないと答えた」

# 「プリンセス・マサコ」はただの「皇室侮辱本」なのか

「私は皇太子ご夫妻の結婚のとき日本特派員だった。当時、一連の経過を見て、なぜ、彼女のような輝かしい魅力的なキャリア女性が、古い伝統の皇室の住人になるのか」と驚いた。そして、うまくいかな

「外務省とヒルズ氏のやりとり」

「宮内庁と外務省の文書は長文だったが、具体的な事実関係の指摘は非常に少なく、私は日本大使館の関係者にとどめておきたい」という出版社の依頼を喜んで引き受けたんです」

「その背景には、昨秋誕生された悠仁さまへの関心が盛り上がり、愛子さまのイメージダウンをねらった悪感さえ感じるといふ人もいます」（前出・旧宮家関係者）

「皇太子ご夫妻はこの7日に『発明・工夫展』をご覧になる予定。中旬には、ご一家でのスキーご静養の予定もありませんが、それも雅子さまの体調をみながらということになるでしょう。また今年には、モンゴルにおける日本年、ということでも両殿下もモンゴルに招待されています。夏から秋にかけてのご訪問を検討しているようです」（前出・担当記者）

「この会見では、最近、オーストラリアとアメリカで出版されたオーストラリア紙の元・東京特派員、ベン・ヒルズ氏の著書『プリンセス・マサコ』問題も質問が上がった。

「この著書については、皇室の意向をうけた外務省が、天皇ご一家と日本の文化について事実無根の極めて侮蔑的な記述がある」と、著者と出版元に、訂正と謝罪を申し入れている。

「このことについては政府が対応しており、今もなお皇太子ご夫妻への非難が繰り返される中、皇太子さまにとっては少なからず緊張される恒例行事であったにちがいない。

「このことについては政府が細かい事実誤認はあるとしても、外国から見ても日本の皇室が悲劇を迎えている」とは疑いようもないだろう。長年の「皇室改革」も仕上げにさしかかった時期の激震に皇后陛下の苦悩はいかばかり――



# 「温かい家庭」と「ジレンマ」のプリンセス

# 行き詰まった美智子さま

「でも、国民の多くが思い抱いている。雅子妃の悲劇は本当に『事実無根』のことなのか？ その反論はない。たしかに外国人の著書だけに、皇室の慣習や細かな事実に関